

関連事業の概況

NHKの関連団体は、それぞれの事業分野でNHKの業務を補完・支援し、NHKとともに豊かで多様な放送文化の創造に努めることを基本的な役割としている。

NHKの業務の効率的推進により経費の節減を図ると同時に、放送のデジタル化や、放送と通信の融合、社会・経済状況の変化等が進んでいく中でNHKのソフト資産・ノウハウの利活用や社会還元を進め、副次収入等の財政的寄与により視聴者の負担を抑制していくことなどを主な目的として運営されている。

関連団体については、グループ経営の最適化を目指し、子会社や関連公益法人の業務の見直しを進め、計画的に再編・統合を行うこととしている。また、NHKと関連団体の取り引きについても、さらに透明性を高めていく。

1. 関連事業の体制

2010年4月に、「NHK Enterprises America」と「Japan Network Group」の2社を「NHK Cosmomedia America」として、「NHK Enterprises Europe」と「Japan Satellite TV (Europe)」の2社を「NHK Cosmomedia (Europe)」としてそれぞれ統合した。これにより、10年度末現在、NHKの関連団体は、子会社13社、関連会社5社、関連公益法人等9団体の計27団体となった。総従業員数は6,236人である。(⇒p.823)

また、10年4月、NHK番組の海外販売やNHKで放送する海外番組の購入等を行っている「国際メディア・コーポレーション」と「NHKエンタープライズ」が統合した。存続会社は「NHKエンタープライズ」で、商号の変更はない。

なお、NHK交響楽団は、10年4月から公益財団法人として認定された。

2. 関連団体の決算概要

10年度の関連団体決算は、健保・共済会を除く25団体の単純合計額で、売上高（事業収入）3,161億円（対前年度189億円増）、当期純利益（正味財産増減額）87億円（対前年度9億円増）であり、増収増益となった。

関連団体によるNHK副次収入への寄与額は、前年度と同水準の69億円になった。

今期決算に伴う配当は、対前年度5億円増の37億円で、うちNHKの受取額は、対前年度4億円増の23億円となった。

3. 団体に対する出資など

10年度は、新たな関連団体への出資や関連団体への増資はなかった。関連団体以外への出資・出捐については、一般放送事業者の教育・教養番組の一層の充実を図ること等を目的とする財団法人「放送番組センター」に8,085万円の出捐を行った。

I. 関連団体への番組制作委託

NHKでは、コンパクトな番組制作体制の下で質の高い放送番組を安定的に確保するため、10年度も09年度同様、関連団体への番組制作委託を進めてきた。また、番組の一層の多様化を図るため、関連団体を通じて、番組制作会社にも企画提案を求め、一部の番組制作を委託した。

関連団体への委託では、NHKエンタープライズに、『NHKスペシャル』などの大型企画番組、ドラマ番組（『ドラマ10』『土曜ドラマ』など）、芸能番組（『BS日本のうた』など）、アニメ番組（『おじゃる丸』など）の制作、購入番組の日本語制作などの委託を行った。

NHKエデュケイションには、『きょうの料理』『おかあさんといっしょ』『日曜美術館』『ニュースで英会話』など、生涯学習や教育・教養に関する番組の制作を委託した。

NHKグローバルメディアサービスには、大相撲、プロ野球をはじめとするスポーツ番組や、『ワールドニュースアワー』『アジアクロスロード』『おはよう世界』などのニュース・情報番組を委託した。

総合ビジョンには、『アニメ 忍たま乱太郎』『GIANT KILLING』などのアニメ番組の制作を委託した。

NHKサービスセンターには、『BS大好き』『NHKプレマップ』などの広報番組や各種番組スポットなどの制作を委託した。

NHKプラネットには、『こんなステキなっぴんが』『グラン・ジュテ～私が跳んだ日』『Mi/Do/Ri～緑遊のすすめ』などの番組を委託した。

日本国際放送には、『OUT & ABOUT』『TOKYO FASHION EXPRESS』などの国際放送番組を委託した。

II. 放送番組等の二次展開

1. 映像・音声商品等の発行

「NHKエンタープライズ」からは、「NHKビデオ・DVD」の名称で、大河ドラマ『龍馬伝』『ハーバード白熱教室』『小惑星探査機「はやぶさ」の軌跡』などの映像商品を発行した。

また「NHKサービスセンター」からは、「NHKCD」の名称で、『基礎英語1～3』（CD付テキスト向け）などの月刊語学教材のほか、『まいにち中国語』『思い出のメロディー』『決定版大河ドラマ全曲集』などの音声商品を発行した。

2. 放送番組および素材の提供

(1) 企業・団体への番組の提供

一般企業・団体の研修用や展示、イベント用に「NHKサービスセンター」を通じて放送番組を提供した。

(2) BS・CS放送事業者への番組提供

「NHKエンタープライズ」を通じて、CS放送事業者等に大河ドラマ『篤姫』『徳川慶喜』、『NHKスペシャル 宇宙』『小さな旅』『にっぽん清流ワンダフル紀行』などを提供した。また、「NHKグローバルメディアサービス」からは、『日本オープンゴルフ選手権』『日本女子オープンゴルフ選手権』などを提供した。

(3) CATVへの番組提供

「NHKエンタープライズ」を通じて、大河ドラマ『風林火山』、『連続テレビ小説～ちりとてちん』や『日本の話芸』『ふたりのビッグショー』『きょうの料理』などを提供した。

(4) 機内上映用の提供

航空機の旅客サービス用として、「NHKグローバルメディアサービス」を通じて日本航空、全日本空輸などへ『NHKニュース』を、「NHKサービスセンター」を通じて日本航空へ『歴史秘話ヒストリア』などを提供した。

(5) 番組素材の提供

民間放送局および一般企業・団体への番組素材の提供を「NHKサービスセンター」を通じて、また「放送大学学園」への番組素材の提供を「NHKエデュケーション」を通じて行った。

(6) キャラクターの使用許諾

「NHKエンタープライズ」が、「どーもくん」等のキャラクターの使用許諾を行った。

3. デジタル事業

「NHKエンタープライズ」を通じて、ブロードバンド事業者に『プロジェクトX』や『NHKスペシャル』などを提供した。また、「NHKグローバルメディアサービス」などが行う携帯電話等のモバイル端末向けのサービスに対し、番組の楽曲や映像クリップなどの提供を行った。

4. 番組・素材の海外提供

関連団体を通じて、番組とニュース素材を海外の放送機関などへ提供した。「NHKエンタープライズ」からアニメやドラマ・自然番組、教育番組を提供、「日本国際放送」からは「NHKワールドプレミアム」を配信した。

開発途上国の放送機関などには、「NHKインターナショナル」から「番組国際ライブラリー」の保存番組を公的資金によって提供した。

番組・ニュース素材については、「NHKインターナショナル」を通じてデジタル素材集を制作し、オンラインによる海外の放送機関や一般団体への提供を増やした。

5. 放送番組関連の出版

『ためしてガッテン』『龍馬伝』『連続テレビ小説～ゲゲゲの女房』『ドラマ10～セカンドバージン』『ハイビジョン特集～ヤノマミ』『NHKスペシャル～無縁社会』『あさイチ』『みいつけた!』などの番組に関連した出版物が、「NHK出版」や外部出版社から発行された。

関連団体

I. 子会社

1. NHKエンタープライズ

10年4月1日に株式会社国際メディア・コーポレーションと合併、国内・海外両面でコンテンツ展開を推進する“総合コンテンツ企業”として新たなスタートを切った。

10年度は、テレビ、ラジオ合わせて1万本を超える放送番組の制作をNHKより受託した。テレビ地上波番組では、4月から6月にかけて放送された『ハーバード白熱教室』が大きな反響を呼んだ。他に『今夜も生でさだまさし』、新番組『キッチンが走る!』など。自然番組では5年目を迎えた『ダーウィンが来た!～生きもの新伝説』のほか、

『プレミアム8 ワイルドライフ』、国内共同制作による大型自然番組『日本列島“みんなの楽園”計画』など。世界遺産関連番組では『世界遺産への招待状』『シリーズ世界遺産100』。ドラマ番組では、『土曜時代劇』の「まっつぐ」「桂ちづる診察日録」「隠密八百八町」、『ドラマ10』では「天使のわけまえ」「四十九日のレシピ」、『土曜ドラマ』では「チャンス」「TAROの塔」「チャレンジド～卒業」、また携帯小説サイトと連携した『ケタイ発 激恋』、「大河ドラマ50作」関連番組など。この他『東京カワイイ★TV』『スタジオパークからこんにちは』『金曜バラエティー』『みんなのうた』など。

衛星放送では、『映画音楽に乾杯!』『今日は一日ショパン』『トニー賞授賞式』関連番組』『ザ☆スター』『フォーク大集合』『週刊ブックレビュー』『ザ少年倶楽部』など。

『海外ドラマシリーズ』では、『イ・サン』『デスパレトな妻たち第5シリーズ』『カイルXY』『ER15』、BSハイビジョン海外ドラマ『大聖堂』など。

ハイビジョンでは国内共同制作の『猫のしっぽ、カエルの手』『南米大陸一周165日の旅』『上海万博ジャパンデーコンサート』『アインシュタインの眼』『100年インタビュー』『プレミアム8』『ハイビジョン特集』など。

アニメでは『メジャー』の後番組として人気漫画が原作のアニメ『バクマン』がスタート。ほかに映画放送と連動した特別番組『まるごとスターウォーズ』や、定時番組『アニメ おじゃる丸』『デジスタ・ティーンズ』などを制作。

自主事業としては、5月から10月まで開催された「上海万博」関連事業で、「日本館」「日本産業館」の映像制作や展示の運営、アトラクションの企画制作を受託。またデジタル放送普及推進イベントをNHKより受託し、各地のイベントや展示会場にブースを出展した。「ロボットコンテスト（ロボコン）」は10年度も大学、高専、ABUの各大会を実施。他にも『東京JAZZ2010』などのイベントや「認知症フォーラム」などのシンポジウムを開催。「平城遷都1300年祭」では10月8日に開催された記念祝典の企画実施を受託した。大河ドラマ事業では『龍馬伝』関連展示を高知県内4か所を含む全国各地で行った。「東京ガールズコレクション」は放送に加え3D撮影も行い、劇場公開やゲーム機への配信を展開。また、上海で日本の女性ファッションを紹介する定時番組『東京☆時尚』の制作を受託。このほか、NHKエンタ

ープライズ合併5周年を記念する社会貢献事業として、当社のノウハウや知識を社会還元する「早稲田大学寄附講座」を年34回にわたり実施した。

パッケージ事業では、前年度を上回る930種のDVD・ブルーレイ映像商品を発行。大河ドラマ『龍馬伝』ではDVDと合わせて大河ドラマ初のブルーレイ商品を発行。この『龍馬伝』と『連続テレビ小説～ゲゲゲの女房』のDVDが好調だった。ブルーレイでは他に『小澤征爾75th Anniversary BOX』『武満徹My Way of Life』などを発行。また『さわやか自然百景』のDVDを毎月届ける頒布会商品を新規事業としてスタートしたほか、『ダーウィンが来た!～生きもの新伝説』のDVDと解説本をセットにした隔週発売のDVDマガジンを6月からスタートした。

キャラクター事業では『いないいないばあっ!』『みいつけた!』『龍馬伝』などの著作権許諾・ロゴタイトルの展開事業が好調、『ニュースウオッチ9』から誕生したキャラクター「春ちゃん」の著作権許諾も開始した。

番組の外部への提供では、BS/CS放送事業者11社14チャンネルに合計200番組1,300本、CATV事業者では延べ635局に3,470本の放送番組を提供した。

NHKオンデマンド事業では、配信と「特選ライブラリー」分の編成・企画および支援業務を受託。外部配信事業者への番組提供（VOD）ではユーチューブ（グーグル）へ725番組を提供、12月の公開から延べ650万再生を記録した。一般の配信事業者には年間で合計160番組を提供した。

デジタル事業では、「上海万博」や「東京ガールズコレクション」などのイベントや常設展示でデジタルサイネージ事業を展開。全国学校音楽コンクールのライブストリーミングやワンセグ独自番組、双方向番組に取り組み、BS二波化に対応してNHKの全データ放送のトップ画面の改修を実施した。

アーカイブス事業では、川口市のNHKアーカイブスの「番組公開ライブラリー」での公開番組や、教育機関への無償貸与番組などとして、合計544本の番組の権利処理を行った。

国際メディア・コーポレーションとの合併により範囲の広がった国際事業では、『オンエアバトル』など海外への番組フォーマット販売、衛星で放送した番組『妖しき文豪怪談』の海外での劇場上映などについて、社内各部と連携しながら取り組んでいる。

11年4月1日にはNHKサービスセンターから

NHK番組の素材提供業務やNHKアーカイブスの運営業務等が移行、さらに業務の幅を広げた。

2. NHKエデュケーショナル

教育テレビを中心に年間およそ1万本のNHK番組を制作するかたわら、番組関連テキストの編集、イベントの企画・制作、独自の映像ソフト制作、デジタルコンテンツ制作、キャラクター事業など、さまざまな分野で事業展開を図っている。10年度は、教育テレビでは新番組『きれいの魔法』『チャレンジ!ホビー』『大科学実験』『テストの花道』をはじめ、『すいえんサー』『ITホワイトボックス』『みいつけた!』『クッキングアイドル アイ!マイ!まいん!』『ニュースで英会話』『日曜美術館』『美の壺』『おかあさんといっしょ』『にほんごであそぼ』『きょうの料理』『囲碁の時間』『将棋の時間』『ここが聞きたい!名医にQ』『きょうの健康』『仕事学のすすめ』『テレビ高校講座』『語学講座』など。また、特集として『ETV特集』の「枯葉剤の傷痕を見つめて ~アメリカ・ベトナム 次世代からの問いかけ」などを制作した。

総合テレビでは『あさイチ』『みんなでニホンGO!』、『ワンダー×ワンダー』の「銀閣 幻の“月の御殿”」のほか、特集では『走る宮殿 特別編』、『NHKスペシャル』の「認知症を治せ!」「私たちは核兵器を作った」などを制作した。

衛星放送では『プレミアム8』でシリーズ「世界一番紀行」、シリーズ「大胆不敵な水墨画」のほか、特集番組として「南アフリカ 絶景を弾く」「浅丘ルリ子 女優の肖像」などを制作した。

このほか、「東京国際キルトフェスティバル」や「国際バラとガーデニングショウ」「おかあさんといっしょスペシャルステージ」などのイベントの企画・運営、放送大学の授業番組の制作を行った。

3. NHKグローバルメディアサービス

09年4月、NHK情報ネットワークと日本文字放送が合併し、NHKグローバルメディアサービスが誕生した。続いて、10年4月1日に国際メディア・コーポレーションのスポーツ事業部門を統合し、NHKの報道部門とスポーツ部門を包括的に支援する関連団体としての体制を一層強化した。

NHKの委託で、衛星第1を中心とするニュース制作、番組制作、スポーツ中継、番組に文字を付加する字幕制作、デジタル放送のデータ制作、

映像取材や編集、映像の海外送受信のほか、モバイル・インターネットのデジタルコンテンツ関連事業など多角的な業務を展開した。

また、11年3月に発生した東日本大震災では、多岐にわたるNHKの報道業務について、全社をあげて支援した。

各分野のうち、まずニュース系では、『BSニュース』『ワールドニュースアワー』『東京マーケット情報』『気象情報』『手話ニュース』を軸に、ニュースの制作・送出を受託した。

番組系では、BSハイビジョンの大型番組『プレミアム8』で「世界の名峰 グレートサミッツ」を年間17本放送。人々を魅了してやまない世界の名峰の魅力を伝えるハイビジョン紀行は多くの視聴者から高い評価を得た。また、『NHKスペシャル』の「アフリカンドリーム~大地の力を我らに」「862兆円 借金はこうして膨らんだ」など、大型ドキュメンタリー番組を放送し、反響を呼んだ。

字幕制作は、総合テレビ・教育テレビ・衛星放送の事前収録番組に加えて、総合テレビの生字幕放送の拡充計画に基づき、新たに『スタジオパークからこんにちは』や『特報首都圏』などに生字幕を付与したほか、W杯南アフリカ大会についても、前回ドイツ大会の1.6倍にあたる34時間（15番組）の生字幕を制作した。また、自主事業として、放送大学の6教科93番組の字幕も制作した。

データ放送では、これまでの東北や関西のNHK各局向けのデータ放送の制作に加えて、大リーグなどスポーツ中継を見ながらデータ放送も楽しめるコンテンツを開発した。首都圏のウェブサイトでは、シリーズ番組に対する視聴者の反響を受け付け、反響を生かした番組作りに貢献した。

スポーツ部門では、W杯南アフリカ大会で、総合テレビ・衛星第1・ラジオ第1の3波で約270時間の中継放送と関連番組の制作を担当した。また広州アジア大会では、総合テレビ・衛星第1で約120時間の中継放送を行った。

一方、大相撲では不祥事が相次ぎ、7月場所の中継放送が中止になり、さらに3月場所が中止になったため、雑誌「別冊NHKウィークリーステラ大相撲中継」が休刊となるなど大きな影響を受けた。

この他、MLB中継では236試合を放送。日本のプロ野球は128試合、サッカーはJリーグ46試合、天皇杯13試合、アジアカップ20試合の放送を担当した。また、W杯南アフリカ大会やアジアカップではNHKスポーツオンラインの専用サイトで、

試合結果他の情報をオンタイムで伝えた。

バイリンガルセンターでは、BSニュースや英独仏露、中国、韓国など、外国の放送局のニュース番組を日本語に通訳して放送するワールドニュースを中心にNHKから受託し制作した。また、プロの放送通訳・翻訳者を養成する国際研修室を運営し、大学や企業・団体、在京の大使館などからの通訳・翻訳の依頼も増加した。

国際回線のコーディネート事業では、W杯南アフリカ大会に始まり、ノーベル賞日本人科学者受賞、中東情勢、ニュージーランド地震日本人被災と、多岐にわたる国際報道に対応した。東日本大震災では、甚大な被害のもようを瞬時に世界へ配信した。モバイル事業の携帯サイト『NHKニュース&スポーツ』は、NHKニュースやスポーツ、気象情報を中心に、生活に必要なさまざまな情報を有料でサービスしている。東日本大震災では、NHKの災害報道の一翼を担うサイトとして情報を無料提供し、携帯の機動性を生かしてNHKの放送をサポートした。利用者数が順調に伸びており、3月にはスマートフォンでもサービスを開始し、携帯と併せてニュース、スポーツ、震災情報などを多面的に提供した。

4. 日本国際放送

日本から世界に向けた情報発信の強化を目指し、テレビ国際放送の番組制作、ニュース編集、編成・送出、受信環境整備などのNHK受託業務のほか、JIB（日本国際放送）の独自放送枠やインターネット配信など自主事業に取り組んだ。

受託番組として『J-MELO』『journeys in japan』『TOKYO EYE』『TOKYO FASHION EXPRESS』『LAST ARTISANS』『SAMURAI SPIRIT』などを制作。10年4月よりNHKワールドプレミアム業務も受託。10年度末には24時間視聴可能世帯数が1億3,655万世帯となった。編成・送出では、テレビ国際放送の安定送出に努めた。

主なJIB独自制作番組は『WILLING HANDS』（3本）、『Islands of Affluence』（3本）、『Picture for the Future』『The Wisdom of the Biodiversity』『Destination Sri Lanka』、放送開始2周年番組『SHIBUYA ALIVE』（インターネット連動型）など。

その他、日本経済新聞社が制作する『NIKKEI Japan Report』（月1回）をはじめ、『Shanghai : Speeding Ahead at Full Throttle』（6本）、テレビ朝日系列の『福岡国際マラソン』英語版、北海

道テレビ放送制作『Hokkaido, in Season』（2本）『Kamuy』、総務省による「地域コンテンツの海外展開に関する実証実験」に参加の地方民放局制作番組（5本）を編成。

インターネット配信は、独自のコンテンツを制作して配信を行うなど新規の事業を試行した。

5. NHKプラネット

NHKプラネットは地域に拠点をもち、地域放送サービスの充実と、ネットワークを生かした地域情報の全国・世界発信、それに地域に貢献するイベントの企画・制作を行っている。全国発信番組では「あさイチ産直ライブ」『こんなステキなにつぼんが』『Mi/Do/Ri〜緑遊のすすめ』を、国際発信番組では『journeys in japan』を受託し、各拠点で分担して制作した。

東京本社では、上記のほか『BS世界のドキュメンタリー〜本当の僕を知ってほしい』『ハイビジョン特集〜わたしは“奇跡”ではない』、『クローニアップ現代』『スペースシャトル退役』『奨学金が返せない』などの番組を制作した。

近畿総支社では、『吉備大臣入唐絵巻の謎に挑戦』などの特集番組や『歴史秘話ヒストリア』『俳句王国』などの定時番組の制作事業、「第27回全国都市緑化ならフェア」などのイベント企画事業、「平城遷都1300年記念大遣唐使展」などの展覧会事業、NHK大阪ホールの運営管理・ホールイベント公演を実施した。

中部支社では、『情報フレッシュ便 ささらサラダ』『サタ★テン』『金とく』『めざせ！会社の星』などの番組制作事業、「あいちトリエンナーレ2010」「COP10」などの大型事業関連業務、大河ドラマにちなんだ「江と三英傑 絆のやかた」展示映像事業などを実施した。

中国支社では、『百歳バンザイ！』『ふるさと発スペシャル〜あなたへ・あの夏の約束』などの番組制作事業、「駅伝ふるさとひろば」「NHK放送体験クラブ」などの事業業務、「国民文化祭おかやま2010文芸祭」イベント事業、「安全創造館展示映像」などの映像制作事業を実施した。

九州支社では、『林家三平のテツタビ』『ぐるっと8県九州沖縄』『ETV特集〜“水俣病”と生きる』などの番組制作事業、「大河ドラマ特別展・龍馬伝」「NHK交響楽団演奏会九州地方公演」などの事業を展開した。

東北支社では、『ここに技あり』『てれまさむね』『情報パレット』などの番組制作事業、「定禅寺ジャズ20周年コンサート」などの事業業務、

「仙台国際音楽コンクール」国際配信ソフトなどの映像制作事業を実施した。

北海道支社では、『つながる北カフェ』『この街きりり☆』『さわやか自然百景』などの番組制作、「わんわんBSランド」などのイベントを実施した。

6. NHKプロモーション

放送関連イベントの企画・運営をはじめ、展覧会・博覧会、コンサート、文化フォーラム・講演会などのイベント事業を中心に、展示・映像ソフト制作などを実施した。

10年度は、展覧会・博覧会では、「細川家の至宝展」「NHK大河ドラマ特別展『龍馬伝』」「地球最古の恐竜展」「ドガ展」「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」「白洲正子 神と仏、自然への祈り」「生誕100年 岡本太郎展」など。

番組関連イベントでは、「NHK音楽祭」「NHKニューイヤーオペラコンサート」「NHK古典芸能鑑賞会」「NHKおかあさんといっしょファミリーコンサート」「新・三銃士×横浜赤レンガ倉庫」など。

このほか、「公共文化施設イベント」「第11回地域伝統芸能まつり」「第8回国際文化フォーラム」「選定保存技術関連シンポジウム」「オリンピックコンサート2010」「ボストン美術館・浮世絵デジタル事業」「ふるさと帰郷フェア2010」「ふるさとの食につぼんの食全国フェスティバル」を実施した。

7. NHKアート

NHKテレビ番組の美術制作（美術制作進行、大道具等美術用品の製作・運用、装置、装飾、衣裳、メイク、かつらなど）やセットデザイン、グラフィックス・CG等のデザイン制作を行う総合美術会社。また、特定建設業・一級建築士事務所の資格を持ち、文化施設・イベント等の企画、制作、設計・施工、運営までトータルに業務を行うほか、NHKホールをはじめとする10のホール・会館の舞台・照明・音響等の操作・運営管理を行うなど、テレビ番組美術制作で培ったノウハウを生かした多様な業務を行っている。

10年度は、NHK番組関連イベントでは、「渋谷DEども」「おかあさんといっしょファミリーコンサート」「ロボットコンテスト」「NHK文化祭たいけん広場」「大河ドラマ『江』展示館」などの会場設計・施工、展示制作等を担当した。

自主事業では、ドームイベントとして定着した

「国際バラとガーデニングショウ」「東京国際キルトフェスティバル」「テーブルウェア・フェスティバル」「世界らん展日本大賞」や地域活性化イベント「地域伝統芸能全国フェスティバルにいがた」「全国都市緑化かごしまフェア」などの企画、制作、設計・施工、運営業務を行った。また、東京都江戸川区の「新川環境整備事業」の時代考証監修・交流センター設計業務も行った。

8. NHKメディアテクノロジー

テレビ、ラジオ、データ放送などの制作・送出および立体ハイビジョン（3D）を含めたロケ・中継業務を主とする放送技術と、番組の編成・送出や報道業務を支援する管理システム、受信料の収納管理など、情報システムの設計・開発・運用を主とする情報技術を併せ持つITソリューション提供企業「株NHKメディアテクノロジー（MT）」として、会社統合から3年目を迎えた。

10年度は、国際事業展開への第一歩として、ボツワナ共和国教育テレビ局開設にあたり、完全テーブルレス化のHD制作・送出システムを導入した第一期整備を完遂し、NHKとNEDとの連携によるグループ経営の実践で国際貢献に寄与することができた。

放送技術関連では、『土曜時代劇』や『土曜ドラマ』『ドラマ10』などのシリーズドラマの制作技術を担当し、ドラマ制作の経験やノウハウを十分に発揮することができた。さらに夏のRock Festival「SUMMER SONIC 2010」では、臨場感あふれる音楽・映像を余すところなく発信するとともに、「APEC2010横浜」でもこれまでの経験と実績を踏まえて業務対応することができた。国際共同制作番組『大科学実験』では、卓越した撮影技術により魅力的な映像を表現。MT総力を上げての業務遂行に対し内外から高い評価が与えられた。

また、3D関係業務では、日本初の3Dマルチカメラ中継車整備、NHKコスモメディア・アメリカと共同でのNAB展示（国際放送機器展：米・ラスベガス）、浅草三社祭や倅田来未等のライブ中継、3D紅白、URCF（超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム）の3D評価実験参加など、MTの技術力をさまざまな場面で発揮した。さらに3D機材・コンテンツを幕張で開催されたInterBEE（国際放送機器展）に初出展し、内外の放送事業者やプロダクション関係者など、5,300人の来場者にMT-3Dをアピールした。

情報システム関連では、NHK情報システムの

大型案件である新放送情報システム（ICIS）、コールセンター、全国震度計、放送センターセキュリティゲート整備およびID統合、参院選ウェブ開票速報など、NHKの情報システム分野の施策に的確に対応した。また、関連団体など17社で利用されている「Web de 出退勤」システムのリニューアルを実施し、各関連団体の広汎な総務関連業務を支援するシステム基盤構築に貢献することができた。

MTのキャラクターとして「ニーナとティーボ」を誕生させた。このMTキャラクターのデザイン・愛称は公募により決定。愛称の「NinaとTivo」はINOVATIONのアナグラム「nina on tivo」に由来している。

9. NHK出版

NHK出版は、NHKの放送番組テキストおよびNHKの放送に関連した書籍・雑誌、放送関連以外の書籍・雑誌等の出版、販売のほか、音楽著作権の管理等を主業務としている。10年度放送テキストは『きょうの料理』などの家庭向けテキスト、『基礎英語』①②③や『テレビでハングル講座』などの語学系テキスト、『中高年のためのらくらくパソコン塾』や『仕事学のすすめ』などの趣味・教養系テキスト等、年間100点余のタイトルを発行した。なお、新規テキストとしては、手芸・クラフト愛好者向けの『すてきにハンドメイド』、信頼できる美容情報を提案する『きれいの魔法』、野菜づくりの楽しさを伝える『趣味の園芸やさいの時間』の3誌を創刊した。

放送関連では、10年度は大河ドラマ関連として『大河ドラマ・ストーリー 龍馬伝』の後編・完結編とノベライズ全4巻のうち後半2冊を発売。また11年大河ドラマ『江～姫たちの戦国』については、当社刊の原作本の新装版全3冊を11月に発売するとともに、「大河ドラマ・ストーリー」の前編を12月に発売した。さらに本作が大河ドラマ50作目となることを記念し、『NHK大河ドラマ大全』を1月に発売した。その他、『連続テレビ小説～ゲゲゲの女房』のノベライズ下巻、『スペシャルドラマ～坂の上の雲』第2部のドラマ・ガイド、韓国ドラマ『イ・サン』の「ドラマ・ガイド」全4冊を発売した。

放送関連以外では、1月に「生活人新書」を「NHK出版新書」と改めて、『はじめての宗教論左巻』など5冊を新装刊として発売した。そのほか、翻訳書では『BORN TO RUN』『シェア』等を刊行した。実用書では、グッズ付商品として

『かわいくできる消しゴムはんこ』と『シリコン型付き かわいいお菓子ブック』を新たに展開した。

また、電子書籍として、大河ドラマ『龍馬伝』『江』、翻訳書の『フリー』等、電子アプリでは『ハングル単語帳』の配信を始めた。

10. NHKビジネスクリエイト

NHKビジネスクリエイトは、NHKグループのインフラ支援業務と事務支援業務を一元的に実施する総合サポート会社として、専門性を生かした事業活動を展開している。

インフラ支援分野では、NHK放送センター、千代田放送会館、NHK放送技術研究所、NHK福岡放送会館などのセキュリティ確保、建物・設備等の管理および環境整備をはじめ、電気・空調・給排水などライフラインの安定供給、ニュースや番組制作のための放送用車両の安全運行を行うなど、公共放送NHKの事業基盤を支えている。

NHK放送センターには1日当たり約2万人の出入りがあり、10年4月、そのセキュリティ向上を図るため各玄関に「セキュリティゲート」が設置された。NHKからの受託による警備業務において、導入後の安定運用に努めている。

また、NHK関連団体等が入居するビルの所有・管理も行っており、10年3月の第二共同ビルの購入などによりオフィス・スペースを長期的かつ安定的に確保するとともに、一層快適なスペースも提供した。

事務支援分野では、NHKからの受託による番組編成関連データの情報処理、NHKの調達・管財関連業務やNHK職員等の給与計算・採用事務関係業務のほか、「大河ドラマ」や『連続テレビ小説』などの放送台本等の印刷、人材派遣サービスを行った。

地上デジタル放送関連業務では、NHKからの受託による調達・管財業務において、11年7月に予定されている地上デジタル放送への完全移行が最終段階を迎えており、関連する放送設備等の調達と資産管理処理を行った。

給与計算業務では、アウトソーシングサービスの事業展開を行い、NHKグループ内の3社から受託している。

人材派遣サービスでは、従来の人材派遣業務に加え、10年11月、有料職業紹介事業許可を取得し、「職業紹介事業」と「紹介予定派遣事業」を開始した。

11. NHKアイテック

放送・通信・情報分野の“総合技術会社”として、送信、受信、映像、建築関連技術をベースとして、「設計」「施工」「保守」の3分野を一体とした事業を展開した。

10年度は地上放送のデジタル化事業を最も重要な業務として、NHK、民放の地上デジタル中継局の建設やNHK共聴施設のデジタル化と自主共聴の調査等を支援した。総務省テレビ受信者支援センターからの受託業務の実施、難視聴解消等のためギャップファイラーシステムの設置・構築工事を積極的に実施した（構築実績：北海道白老町ほか）。

また、ケーブルテレビ局や民放、自治体等に向けて自社開発した低価格な「デジタル送出システム」「バーチャルシステム」等を受注、施工した。

海外業務は、ODA案件のベトナム国営テレビ放送センター建設工事の施工監理等を実施した。

12. NHK文化センター

NHK文化センターは、全国55教室（11年3月末現在）で、教養・趣味・暮らし・芸術・健康など、7万余りの多彩な講座を展開している。会員は全国で約29万人に上る。

10年度は、「第24回国際交流祭inワルシャワ」を実施し、展示、実演、舞台公演などで参加者154人、入場者は3,000人に上った。

受講者を対象に実施している「写真大賞」には985点の作品応募があり、受賞作品等はNHKスタジオパークギャラリーで展示し、好評であった。

また、NHKからの受託業務として「デジタルテレビ使いこなし術講座」をNHK文化センターの受講者を対象として実施し、10年8月から11年3月の期間中587回実施し参加者は6,037人となった。

10年10月、大阪教室が梅田阪急ビルオフィスタワーに移転、梅田教室としてオープンし駅直結の利便性を生かし、順調なスタートを切った。

13. NHK営業サービス

NHK営業サービス（NBS）の3か年経営計画「NBSプラン21-23」の2年目、全社一丸でNHKの営業改革の推進を支援するとともに、プランの着実な実行に努めた。10年度の受託業務については、全事業所で営業事務情報処理業務の全面受託を開始、渋谷における受信料収納業務の試行開始に的確に対応した。また、プライバシーマーク取

得企業として個人情報の保護の徹底を図りつつ、営業システムの安定運用を基に、より一層効率的な事業展開に力を注いだ。一方、全国4か所のコールセンターと連携しながら、ていねい・親切的な視聴者対応を基本とした電話対応業務を実施した。10月には新コールセンターシステムでの全国運用を開始した。現場活動の各種支援では地域スタッフの募集・講習の実施や育成に向けた教育用DVDの制作と併せて、営業パンフレットの企画・編集など契約・収納活動資材を制作した。

自主業務では、完全デジタル化を翌年に控え、飛躍的に増加した視聴者・国民からの電話問い合わせに対して的確に対応した。併せて一部の関連団体のコールセンター業務についても円滑に実施した。また、新たな事業の開発検討を進めた。

II. 関連会社

1. 放送衛星システム

株式会社放送衛星システム（略称B-SAT）は、BS放送における基幹放送局提供事業者として放送衛星を調達・所有し、その管制、運用のほかアップリンク業務、全局EPG（電子番組表）のデータ集配信業務を行い、BS放送の基本的なインフラ提供の役割を担う。

10年度は、5機の放送衛星BSAT-1b、BSAT-2a・2cとBSAT-3a・3bにより、地デジ難視対策のセーフティーネット放送を含む9チャンネルの衛星放送を着実に視聴者に届けるよう、全社を挙げて放送衛星の安定運用に取り組んだ。

併せて、11年以降、放送衛星BSAT-3a・3b・3cの3機体制を基本に、12チャンネルの衛星放送を一層安心・安全に視聴者に届けていく方針のもと、放送衛星の調達と関連設備の整備に取り組んだ。BSAT-3bは、10年10月29日に打ち上げられ、性能確認を経て、12月8日にB-SATが引き取った。BS放送用中継器とCS放送用中継器を搭載する初の共同衛星であるBSAT-3cの打ち上げに向けた準備も進めている。

2. 総合ビジョン

アニメーションおよびアニメーション関連番組の企画・制作を行っている。

10年度は、教育テレビの長寿番組『アニメ 忍たま乱太郎』をはじめBS2『GIANT KILLING』『心霊探偵 八雲』などのアニメ番組を制作した。

アニメ関連番組では『忍たま乱太郎 特番』を

制作した。併せて、これらの番組をDVD化、キャラクター商品化、催し物化、海外展開するなどメディアミックス事業にも積極的に取り組んだ。

また、「NHK杯国際フィギュアスケート競技大会」の企画・運営に参画した。

3. NHK Cosmopedia America, Inc.

NHK Cosmopedia America はアメリカにおける番組制作と国際映像展開の拠点を目指している。制作の大きな柱は、NHK番組の制作とリサーチ、通訳、機材の手配などのコーディネート業務。MLB（大リーグ野球）などのスポーツ中継業務も請け負っている。

国際映像展開では「TVジャパン」のチャンネル名でアメリカ、カナダ在住の日本人、日系人向けにNHK番組を中心とする24時間の有料配信事業を行っており、契約者数は7万4,000を超え、350のホテルでも視聴可能。また、一日平均5時間はノンスクランブルの「邦人向け国際放送」である。

4. NHK Cosmopedia (Europe) Limited

NHK Cosmopedia (Europe) の事業の大きな柱はNHKの制作能力、ノウハウを最大限生かした番組の制作およびリサーチ、通訳、機材の手配などのコーディネート業務と「JSTV」のチャンネル名で欧州、北アフリカ、中東向けにNHK番組を中心に放送する24時間の有料配信事業である。

JSTV事業では衛星やCATVを通じて60を超える国に放送を提供しており、契約数はおおよそ9,000。同地域内の600以上のホテルでも視聴可能である。また、一日平均5時間は「邦人向け国際放送」としてノンスクランブル放送となっている。

5. ビーエス・コンディショナル アクセス システムズ

略称は「B-CAS（ビーキャス）」。NHKBSデジタル放送の受信確認メッセージや有料放送の視聴、それにデジタル放送番組の著作権保護などに利用されているICカード（B-CASカード）の発行・管理を行っている。

10年度のカード発行枚数は5,407万枚。11年の完全デジタル化に向けてカード発行枚数は年々増え続け、累計発行枚数は1億4,984万枚となった。

社会的インフラを担う企業として、引き続きコスト削減に努め、利用者負担の軽減を図った。

Ⅲ. 関連公益法人等

1. NHKサービスセンター

公共放送の普及・浸透と視聴者サービスを担う財団として、視聴者とNHKとを結ぶさまざまな広報および視聴者サービス活動を推進した。

「NHKふれあいセンター」（10年11月、「NHK視聴者コールセンター」から名称変更）では、視聴者からの要望・問い合わせに対し迅速・的確な対応に努めた。

また、週刊番組情報誌『ステラ』や月刊誌『ラジオ深夜便』の発行、NHK広報番組の制作、語学講座番組の音声テキストCDの発行、各種の番組展示や催し物、印刷物などによって広報普及活動を推進した。『ステラ』は11年4月1日・8日号から、BS2波化に伴い誌面を刷新し、かつオールカラー化した。なお、『大相撲中継』（『NHK大相撲中継』を10年名古屋場所・秋場所合併号から改題）は11年2月、休刊と決定した。

「NHKスタジオパーク」「NHKホール」「NHK放送博物館」などでは来館者を対象としたイベントや多彩な視聴者サービスを実施した。なお、「NHKスタジオパーク」はリニューアルのため、11年4月より半年間の予定で休館とした。また、通信総合博物館の「NHK放送館」は11年3月末をもって閉館した。

このほか、美術展など催し物の実施、文化・教養などの音声・映像ソフトや番組記念品の制作・頒布、語学・音楽・落語・朗読の配信事業会社への提供など、多彩な事業を展開した。

なお、川口のアーカイブス業務や番組公開ライブラリーの運営、番組・素材の提供業務といったアーカイブス事業については、11年4月1日に(株)NHKエンタープライズと(株)NHKプラネットに移行した。

11年3月11日発災の東日本大震災では、「NHKふれあいセンター」で迅速・的確な視聴者サービスに努めたほか、「NHKホール」「NHKみんなの広場ふれあいホール」ではホールの貸し出しや公開番組を中止するとともに、「NHKスタジオパーク」「NHK放送博物館」「NHKアーカイブス・番組公開ライブラリー」、通信総合博物館の「NHK放送館」では、来館者の安全を確保するとともに今後の安全を図って一時休館とした。

2. NHKインターナショナル

外務省や国際交流基金（JF）など公的資金による発展途上国の放送機関への番組提供事業を基幹に、映像による国際交流事業や海外メディアの取材協力業務等を行い、各国との相互理解の促進と、国際親善の増進に資することを目的としている。

東日本大震災では、直ちに衛星伝送車を被災現場に急行。外国放送機関への映像伝送や「NHKワールド」向けのレポート中継を実施した。当財団の国際伝送スタジオも、中国CCTVなどへの映像素材伝送やスタジオライブの要請に的確に応えた。

10年秋に名古屋で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」では、国際メディアセンター（IMC）の設営・運営業務を環境省から受託。会議や記者会見等を代表取材して国際信号を制作するホストブロードキャスターを務め、各国の取材者約1,700人に便宜を図った。

続いて横浜で開催された“2010年日本APEC首脳・閣僚会議”では、国際放送センター（IBC）のブッキングオフィス業務等をNHKから受託。各国の記者レポートなど、53件の国際伝送を実施。“北海道洞爺湖サミット”（19件）を大幅に上回った。

東京で開催された「第47回アジア太平洋放送連合（ABU）総会」では、事務局業務を効率的に支援し、大幅な経費節減を実現した。

10年度の公的資金による番組提供事業は、外務省の“文化無償協力”によるアルゼンチン、パレスチナと、JFによる19か国、合わせて21か国、25機関に対し、1,849本を提供した。

また、国際協力機構（JICA）やJFなど公的機関に、技術協力や研修用など放送以外の目的で利用する番組を814本提供した。

こうした海外提供用の番組に、NHK番組の英語版44本、仏語版23本、西語版35本、アラビア語版10本を制作したほか、自主企画番組を39本制作。“国際版番組ライブラリー”を充実させた。

公的機関等からの委託により多様な事業を展開した。アフリカのマリ共和国独立50周年の記念DVDを制作。NHKBS1でも放送した。総務省による地域放送局制作番組の海外発信事業を受託。番組43本の制作管理を行うとともに、番組10本の中国での放送を実現した。民主化を進めるネパールのメディア政策の改定と国営ラジオ局の公共放送化を支援する事業をJICAから受託した。

引き続き日中交流を促進する事業に取り組んだ。11月、環境をテーマに「第3回中国ハイビジョン・環境フォーラム」を北京と無錫で開催。6,350人の参加者にNHK番組をアピールした。上海万博に関連して「NHKワールド」向けニュース企画の制作を国際放送局から受託した。中国国家ラジオ映画テレビ総局からの研修員9人を受け入れた。

10年度、外国放送機関への取材制作協力は、13の国と地域、15の放送機関に613件実施した。09年度に業務提携したBBC Motion GalleryとThought Equity Motionの映像素材の提供業務件数が全体の40%を超えた。このほか、翻訳・リライト業務と渉外・接遇業務を実施した。

「第37回日本賞」や「ABUデジスタ・ティーンズ」「アジアプロデューサー会議」の運営業務等を実施した。日本賞には、409作品が参加し史上最多となった。

国際コンクール参加番組の国際版制作を受託している。10年度は、イタリア賞、バンフテレビ祭、国際エミー賞などに向けて、54本を制作した。

「NHKワールド」向けに英語版番組の制作を受託している。10年度は、『サイエンスZERO』などの定時番組のほか、『爆笑問題のニッポンの教養』など、新しいカタチの英語版制作を試みた。

このほか「NHKワールド」では、視聴者対応業務および広報業務を実施した。

3. NHKエンジニアリングサービス

NHKの技術開発成果を広く提供する技術協力や保有特許の利用促進、新技術の実用化開発、デジタル放送の普及に向けた調査業務などを実施した。

10年度は地上デジタル放送の中継局に対する受信状況調査、ビル陰対策共聴設備の現状調査、共聴地域での衛星放送直接受信に向けた調査・相談業務、またデジタル放送に向けた講習会、地上放送共聴施設のデジタル化設計などを実施した。

スーパーハイビジョンについてはIBC2010におけるシアター展示の運用業務、小型軽量の新型プロジェクターの開発などを行った。また超高精細の単板カメラセンサーの開発と医療・産業応用、視覚障害者の早聞きを助ける高速話速変換機の実用化開発や語学教材への応用、美術館などの映像・音声設備の整備と保守、超高層ビルによるテレビ受信障害予測の技術協力、地デジ移行後の周波数を利用する新メディアの技術コンサルなどを実施した。また、技術資料・標準画像の頒布など

技術者育成、新技術の普及に努めた。

4. NHK放送研修センター

NHK職員に対する研修は、プロフェッショナルとしてのコンプライアンスを備えた、信頼できる公共放送の担い手の育成を目的とし、入局から3～4年を「人材育成重点期間」として実施する基礎研修のほか、コンプライアンスの推進、職員倫理・公金意識の徹底、管理職・デスク層のマネジメント力の強化、各職員層に合わせた能力開発や意識改革を推し進める研修などを実施した（94研修156回、受講者数4,887人）。

このほか、eラーニングにより「NHK倫理・行動憲章、行動指針」や「放送倫理」など10コースを実施した（受講者数2万4,737人）。

民間放送局、海外放送局、ケーブルテレビ局、制作プロダクションに対しては、番組制作のノウハウ、放送技術の基礎や最新技術の知識・技能習得を図る研修を実施した。

民放関連で、放送倫理をテーマとする「放送人基礎研修」や、若手技術者を対象とした「テレビ技術研修会」を実施したほか、ケーブルテレビ局を対象に「番組制作コース」と「伝送技術コース」を設け、新入社員や初心者を対象とした専門研修を実施した。

また、海外の放送局に対して、国際協力機構（JICA）からの委託による番組制作・放送技術・管理関係の研修のほか、中国、台湾の放送局を対象に、テレビ番組、放送事業、放送技術についての研修を実施した。

ことばコミュニケーション事業では、「話しことば通信添削講座」「日本語センタースクール」「先生のためのことばセミナー」「朗読事業」「企業・団体研修」などを実施したほか、放送研修センター設立25周年を記念した「日本語センターフォーラム」を開催した。

また、新学習指導要領の全面実施を控えて、教育現場に出かけスピーチや朗読といった表現の楽しさを子どもたちに感じてもらう教育貢献活動を、アナウンス室とともに取り組んだ。

このほか、放送のバリアフリー化を目指すNHKの生字幕放送や生解説放送の拡充にも協力し、特に東日本大震災関連情報番組で障害のある被災者への情報発信に貢献した。

5. 日本放送協会学園

NHKの教育番組を利用して通信による高等学校教育を行い、放送の利用促進に寄与しているほ

か、NHK教育番組の充実改善に協力している。また、生涯学習通信講座や介護福祉士、社会福祉士の国家試験受験資格取得のための通信教育も行っている。

〔通信制高等学校〕

NHKの放送を利用して学ぶ広域通信制高校で、本校のほか、全国33の協力校等でスクーリングを実施。普通科（3年制）は08年度から単位制の教育課程に変更。3,279人が在籍。卒業生は1,045人、卒業生の総数は6万6,758人となった。希望科目を履修する科目履修生は15人、単位認定のない特科では国内外で319人が学んだ。

〔通信制福祉教育〕

通信制の福祉専攻科（2年間で国家資格の「介護福祉士」の受験資格を取得）は、学生総数2,304人、修了生1,786人、修了生総数3万3,511人となった。国家試験の合格率は全国平均50.2%に対し72.4%。

社会福祉士養成課程（2年間で国家資格の「社会福祉士」の受験資格を取得）は、学生総数537人、修了生233人、修了生総数1,979人。国家試験合格率は全国平均27.5%に対し56.6%。

〔生涯学習通信講座〕

通信制の生涯学習講座で、俳句、短歌、書道、写真、語学、実用講座など236講座・コースを開設し、対面型のオープンスクールも含め、国内外で年間約10万5,000人が受講した。受講者総数は延べ約520万5,000人に達する。

6. NHK交響楽団

オーケストラ演奏により、音楽芸術の向上発展を図り、その社会的文化的使命を達することを目的とした公益財団法人である。10年度は「マーラー・交響曲シリーズ」や歌劇「アイダ（演奏会形式）」「プリテン／戦争レクイエム」などを定期公演で演奏し、好評を得た。また、4年半ぶりとなる海外公演を11年3月、アメリカ・カナダの4か所で開催した。東日本大震災の発災直後であったため、主催団体による公演会場での募金活動など、被災者支援の取り組みも行われた。

10年度は定期54回、特別9回、地方10回、海外4回、契約38回の公演を実施した。

これらの公演のほか、10年度は社会貢献活動の一環としてN響メンバーが小学校を訪問する「NHKこども音楽クラブ」をNHKと共催で8か所で開催、病院のロビーで室内楽を演奏する「病院コンサート」を5か所で開催、また口蹄疫で被害を受けた地域の復興を願う「がんばれ宮崎コンサ

ト」を宮崎県川南町で9月18日に開催した。

放送面では、N響の全定期公演がFMで生放送、BS2とHV等で録画放送されたほか、ETV『N響アワー』で解説付き放送が行われた。また、大河ドラマ『江』の音楽収録が行われた。

これらの演奏活動を支える財政基盤を強化するため、賛助会員企業（企業からの寄付金）の新たな開発に取り組んだ。

7. NHK厚生文化事業団

10年に創立50周年を迎えた厚生文化事業団は、変わりゆく時代のニーズに的確に答え、社会福祉の増進に資するため、NHKグループの社会福祉法人として放送と連携しながら、障害者福祉、高齢者福祉、ボランティア促進事業を実施した。

10年度の主な事業は次のとおり。

- ・障害者の自立と社会参加をテーマに「NHKハートフォーラム」を各放送局とともに開催した。
- ・子どもの発達相談会などを実施したほか、発達障害の子どもを対象にした療育キャンプを行った。
- ・NHKの地域放送局と連携しながら「認知症フォーラム」を全国で実施し、地域放送で放送された。
- ・高齢者の健康と生きがいをテーマにしたETV『福祉ネットワーク すこやか長寿』の公開イベントを各地で行った。
- ・高齢社会の生き方を描く「NHK銀の雫文芸賞2010」や、障害者の体験や福祉の実践を記録する「第45回NHK障害福祉賞」を実施した。
- ・チャリティー事業を行い、障害者や高齢者の施設・団体に福祉機器を贈呈した。また、地域で福祉活動に取り組むグループを支援する「わかば基金」では、支援金のほか、NHKや関連団体で不要となったパソコンを提供するリサイクルパソコンの支援を行った。
- ・「NHKボランティアネット」では、東日本大震災に関する情報や、広い世代にボランティアへの参加を促す情報提供サービスを強化した。
- ・創立50周年記念事業として、10年3月に障害者演奏家31人がオーケストラに参加する「こころコンサート～コバケン（小林研一郎）とその仲間たちスペシャル2010」を実施したほか、45年間の障害福祉賞の中から選んだ作品集や、事業団の歩みをつづった50年史を発行した。

8. 日本放送協会健康保険組合

健康保険法に基づき、被保険者と被扶養者に対

して、保険給付および独自の付加給付を行った。また、各種予防接種および検診への経費補助やメンタルヘルスへの対応等、疾病予防や健康保持・増進のための保健事業諸施策を実施した。そのほか、特定健康診査の受診勧奨や特定保健指導対象者への利用促進を図ることにより、メタボリックシンドロームの予防および改善に取り組んだ。

9. 日本放送協会共済会

NHK役職員とその家族などの生活向上と、退職者とその遺家族の救済、援護等を行うために、食堂の運営、物品販売、生涯生活設計相談、各種給付・貸付、各種保険の団体扱いおよび転勤者用住宅の管理・運営等の福利増進施策を行った。